

令和5年度第1回松江市総合計画審議会会議録

1 日時 令和5年10月12日(木) 13時30分～15時00分

2 場所 くにびきメッセ 5階 501大会議室

3 出席者

(1) 委員

田部長右衛門会長

秋本大空委員、麻田香里委員(代理:松宮悠人氏)、岩田英作委員、植田祐市委員、黒目敏行委員、坂田健一委員、鷗鷯侑委員、佐藤薫委員、佐藤尚士委員、竹田尚子委員、武部幸一郎委員、鶴見怜士委員、藤田達朗委員、細田眞司委員(代理:星野潮氏)、松村健次委員、松本光弘委員、山中茂委員

(2) 事務局

上定昭仁市長、爲國理事(政策部長)、井原政策企画課長、岡田SDGs推進課長、小川デジタル戦略課長、本田政策企画課政策係長、浅野SDGs推進課推進係長、デジタル戦略課池田DX推進係長、平塚主幹(市長公室)、松本主任、高尾副主任、狩野副主任、高岡副主任

4 議題

議事

(1) 松江市の人口動態について

(2) 令和4年度松江市総合計画の実施状況について

(3) 国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた、本市のデジタル化の推進について

(4) 令和4年度地方創生関係交付金事業の実施状況について

報告

(1) 令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について

(2) 松江市のSDGs推進の現状について

5 会議経過

別紙のとおり

6 所管課等

松江市政策部政策企画課

電話 0852-55-5173

(別紙) 会議経過

1 開会

事務局（本田政策係長）

ただいまより令和5年度第1回松江市総合計画審議会を開催いたします。本日の会議は、松江市情報公開条例及びそれに基づく審議会等の公開に関する要綱の規定により、すべて公開にて行います。また、会議録作成のため、録音させていただきます。会議録は、本審議会の事務局である政策企画課で作成し、発言者名と発言の要約を記載するものとさせていただきます。なお、出席されました委員の皆様全員に文書で承認を得たうえで、会議録を確定させていただき、会議資料等を含めて本市行政資料コーナー及び市ホームページで公表させていただきます。

本日の会議は概ね15時終了予定としておりますので、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。

それでは開会にあたり、上定市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

上定市長

皆様、こんにちは。この度は松江市総合計画審議会の委員にご就任いただき、また、本年度第1回目の審議会にご出席いただきありがとうございます。

昨年3月に本審議会において松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定していただき、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症、或いはエネルギー価格・物価の高騰の影響を受けながらも、前向きに、前例や固定観念に捉われずに、新しい政策の歩みを進めてきたところです。

本日は、その概要についてご説明させていただき、皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っておりますが、政策を進めるにあたって心がけてきたことが一つあり、それを少し共有させていただきたいと思います。それは何かといいますと、市民の皆様とのキャッチボールであり、総合計画が何であるか、そしてその計画に基づいてどういった取組を進めているのか、ということについてできるだけ積極的に皆様に発信をさせていただきました。

令和4年度から今まで1年半くらいで合計39回の講演やセミナーを実施させていただいております。そのうちの10回は大学生・高校生・中学生・小学生向けです。39回のうち、29回は私の方が講演し、意見交換させていただきました。市民の皆様から貴重なご意見をいただき、それらを踏まえたくえで計画を遂行していく循環を作っていきたいと思っております。

市民の皆様と計画の内容と進捗状況をわかりやすく共有したうえで、行政や民間企業が市民の皆様と一緒に進めて参りたいと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

3 委任状の交付

事務局（本田政策係長）

続きまして、委嘱状の交付です。本来ならば、委員の皆様お一人お一人に委嘱状を手交すべきですが、限られた時間ですので、委嘱状をお手元に置かせていただいております。ご了承ください。

また、委員の皆様のご紹介につきましても、大変失礼ながら、お手元の委員名簿にて代えさせていただきます。任期は2年となっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に、本日欠席の委員様をご報告させていただきます。本審議会名簿における、

9番委員 松江市公民館長会 副会長 佐藤和彦様、

15 番委員 島根県農業協同組合 くにびき地区本部 執行役員 副本部長 中村隆様、

16 番委員 松江市身障者福祉協会 会長 広野正充様、

以上 3 名から欠席のご報告ありました。

また、本審議会では、代理出席に係る要綱を定めております。あらかじめ代理出席の申し出がありましたので報告させていただきます。本審議会名簿における、

2 番委員 子育て世代への新広報事業ねえみちよって実行委員会 委員 麻田香里様、
に代わりまして、本日は松宮悠人様に、また、

18 番委員 一般社団法人松江市医師会 会長 細田眞司様、
に代わりまして、星野潮様にご出席をいただいております。本日はどうぞよろしくお願いたします。

4 審議会成立宣言

事務局（本田政策係長）

続きまして、審議会成立宣言です。本日の審議会は、松江市総合計画条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上が出席となっておりますので、成立していることをご報告させていただきます。

5 会長の選出

事務局（本田政策係長）

続きまして、会長の選出です。同条例において本審議会の会長は委員の互選によって定めることとなっております。会長の選出にあたりまして、皆様からご推薦はありますか。ないようでしたら事務局にてご提案させていただいてもよろしいでしょうか。

<全委員の了解>

ありがとうございます。それでは事務局からご提案をさせていただきます。本審議会名簿における、
13 番委員 松江地区商工会・商工会議所連携協議会 会長 田部長右衛門様、
に会長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

<全委員の了解>

それでは会長を田部委員にお願いしたいと思います。田部会長は正面の会長席の方へ移動していただきますようお願いいたします。

6 会長の職務代理者の選任

事務局（本田政策係長）

続きまして、会長の職務代理者の選任です。同条例において会長が指名することとなっております。田部会長、ご指名をお願いいたします。

田部会長

それでは私の方から指名をさせていただきます。会長の職務代理者ですが、本審議会名簿における、
17 番委員 国立大学法人島根大学 理事 藤田達朗様、
をお願いしたいと思います。藤田委員よろしいでしょうか。

藤田達朗委員

はい。

田部会長

ありがとうございます。ではよろしく願いいたします。

事務局（本田政策係長）

ありがとうございました。

それではここで、田部会長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、田部会長よろしくお願いいたします。

7 会長あいさつ

田部会長

皆様こんにちは。先ほど会長に選任いただきました松江地区商工会・商工会議所連携協議会会長、また、松江商工会議所会頭もしております田部です。

松江市総合計画ですが、本日の委員の皆様の中には、新しい方と、前の総合計画を作った際の委員と両方いらっしゃると思いますが、この委員会の役割については、目に見える形で、市民の方もわかる形で、この計画がしっかりと進み、新しいことが行われている、古いものが新しく変わっていく、課題が解決されていく、そういったことが市民の皆様にも実感していただけるというのが一番重要であると思っております。

本日もご説明申し上げますが、基本的には達成、未達成を“○”、“×”で示しており、これが評価基準になっております。かなり厳しい設定で評価しておりますが、本日は皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、松江市総合計画もしっかりと進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局（本田政策係長）

田部会長、ありがとうございました。それではここからの議事進行につきましては、同条例第8条第3項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、以降の進行を田部会長にお渡ししたいと思っております。よろしく願いいたします。

8 議事

田部会長

それでは議事に移ります。議事1～4について、事務局から説明をお願いします。

事務局（小川課長）

議事1「松江市の人口動態について」説明

私からは議題1についてご説明いたします。

まず、人口の推移につきまして2000年の211,564人をピークに減少しております。直近の2020年には203,616人と、20年間で約8,000人の減少となっております。

続いて社会動態の推移ですが、2018年はプラス29人で転入超過となりました。2018年以降も、4年連続で転出超過となっております。

年代別・移動理由別の移動者数につきましては、トピックとして就学・卒業を理由に、20歳～24歳の方の転出超過が多いということが見て取れます。

一方で、U・Iターン者数の推移につきましては、新型コロナウイルス感染症発生以降、Iターン者数が増加傾向にあるということが見て取れます。因果関係は不明ですが、テレワークの普及といった社会情勢の変化も考えられますので、今後どう推移していくのか注視していく必要があると思っております。

続いて、自然動態の推移ですが、2004年はプラス78人で自然増となりました。2004年以降、18年連続で自然減となっております。

合計特殊出生率につきましては、全国平均を上回っておりますが、近年は1.5を若干上回る値で、横ばいで推移し、総人口に占める20歳～39歳までの人口の減少により、出生数が減少しております。

最後に、2020年国勢調査をもとにした人口ピラミッドですが、15歳～34歳までの若年層人口に対して、65歳以上の老年人口が1.56倍となっていることから、出生数よりも死亡者数が上回る自然減の状態は今後も続くものと予想されております。議事1の説明は以上です。

事務局（井原課長）

議事2「令和4年度松江市総合計画の実施状況について」説明

議事3「国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた、本市のデジタル化の推進について」説明

議事4「令和4年度地方創生関係交付金事業の実施状況について」説明

続いて私からは議事2～4についてご説明いたします。

はじめに議事2ですが、松江市総合計画では施策ごとに成果を表す指標であるKPIを設定しており、本日は2022年度のKPIの達成状況をもとに評価検証を実施するものです。

続いて評価の方法ですが、田部会長のごあいさつにもありましたとおり、2022年度の実績値と当該年度の目標数値を比較し、達成していれば“○”、未達成であれば“×”と、2区分で評価しております。なお、昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにとられた措置等により、当該KPIを適正に評価できない31項目を評価対象外としております。その事例として、入国制限など国の規制によって観光入込客数に影響したものや、市の事業や地域行事の規模縮小・中止によって今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合に影響したもの等があり、これらを対象外としております。その結果、評価対象のKPIは72項目となっております。

続いて5つの柱ごとの状況についてご説明いたします。まず仕事づくりです。KPIは全部で19項目ありますが、評価したのは12項目であり、75.0%が達成、25.0%が未達成となっております。未達成の主なものは、新分野チャレンジ支援件数、創業相談支援数が挙げられます。その要因ですが、新分野チャレンジ支援件数につきましては、エネルギー価格・物価高騰の影響が新分野へのチャレンジを控える要因となったこと、また、創業相談支援数につきましては、目標を達成しておりませんが、前年度から比較すると増加傾向にあり、今後の伸びが期待されているところです。更にネクストアクションという部分では、今後どのように取組を進めるのかをスローガニックに記載しております。それから、昨年度の取

組状況、今年度上期の取組状況につきましては、主要施策一例という形で、それぞれ記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

続いてひとつづくりです。KPIは全部で32項目ありますが、評価したのは24項目であり、41.7%が達成、58.3%が未達成となっております。未達成の主なものは、子育てホームサポーターの数、要配慮者支援組織世帯カバー率が挙げられます。その要因ですが、子育てホームサポーターの数につきましては、サポーターの高齢化による退会が影響していること、また、要配慮者支援組織世帯カバー率につきましては、自治会の加入状況や担い手の高齢化等の課題から要配慮者支援組織の設置が遅れていると分析しております。ネクストアクションといたしましては、「コロナ禍で減少した“ひと”と“ひと”とのふれあいの機会創出」として今後取組を進めてまいります。

続いてつながりづくりです。KPIは全部で19項目ありますが、評価したのは11項目であり、54.5%が達成、45.5%が未達成となっております。未達成の主なものは、関係人口のイベント参加者数、歴史・文化資源のまちあるき参加者数が挙げられます。その要因ですが、関係人口のイベント参加者数につきましては、SNSの多様化により、ターゲットを絞った効果的な情報発信やイベント開催手法の工夫が必要であると分析しており、また、歴史・文化資源のまちあるき参加者数につきましては、歴史文化をテーマとしたまち歩きはマイクロツーリズム需要の高まりで申込者数は目標値を上回っていたものの、当日の天候不順により実際の参加者数は目標値に届かなかったという状況です。ネクストアクションといたしましては、「意識の変容を捉え、ターゲット別にアプローチ」として今後取組を進めてまいります。

続いてどだいづくりです。KPIは全部で34項目ありますが、評価したのは24項目であり、54.2%が達成、45.8%が未達成となっております。未達成の主なものは、健康づくりに取り組む市民の割合、松江のことを発信した市民の割合が挙げられます。その要因ですが、健康づくりに取り組む市民の割合につきましては、年代に応じた健康づくりを促す施策を検討するとともに誰でも気軽に運動できる「まつえっこ体操」のPRが必要と感じており、また、松江のことを発信した市民の割合につきましては、SNSの「いいね」やリポスト等の機能の利用を想定し、市からの情報発信に工夫が必要であると考えております。ネクストアクションといたしましては、「魅力的な情報発信で“バズる”松江」として今後取組を進めてまいります。

最後になかまづくりです。KPIは全部で6項目ありますが、評価したのは1項目です。未達成である圏域内への移住者数ですが、これは中海・宍道湖・大山圏域市長会における取組であり、毎年3,000人という目標値があり、2022年度は目標に96人届いていない状況です。ネクストアクションといたしましては、「それぞれの強みを生かし、国内外に連携して魅力発信」として今後取組を進めてまいります。

次に議事3ですが、国の方が、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020年～2024年）」を策定しておりましたが、昨年度に抜本的な改訂が行われ、「デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023年～2027年）」として生まれ変わっております。今回、国が改訂を行った主なものとして、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決ということで、四つの柱「地方に仕事をつくる」、「人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「魅力的な地域をつくる」が掲げられております。

本市におきましては、松江市総合計画において、デジタル技術を活用して積極的に取り組んでいくこととしておりますが、本市のデジタル化推進の実行計画である「松江市みんなにやさしいデジタル市役所計画」に、国のデジタル都市国家構想総合戦略を踏まえた社会課題解決に向けた取組の考え方を整理

し、取り組んでいくこととし、国のデジタル都市国家構想総合戦略の策定に伴う本市総合計画の改訂は行わないことといたします。

最後に本市におけるデジタル化やデジタルを活用した取組例を記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

続いて議事4の令和4年度地方創生関係交付金事業の実施状況については、令和4年度は5つの事業を実施いたしました。まず「“ご縁も、美肌も、しまねから。”～新たな魅力で人を呼び込む観光地域づくり」事業ですが、交通機関との連携強化事業であり、この事業自体は島根県が主体となり、松江市、浜田市、安来市が一緒になって取り組んでいる事業になります。具体的には松江地域で武者隊によるおもてなしの向上などに取り組んだところです。

二つ目の「MATSUE 起業エコシステム推進事業」につきましては、アントレプレナーシップ教育ということで、18歳以下の方で17組、22歳以下の方で8組のエントリーをいただき、新ビジネス創出に向けた循環の取り組みを進めたところです。

三つ目の「高校を核とした新たな人づくり・ひとの流れづくりプロジェクト」につきましては、これも県が主体となり、県内の全市町村が参画し、卒業生が地域と関わり続ける仕組みの構築に向け、将来的な人材還流や関係人口の創出に向けた取り組みを進めたところです。

四つ目の「松江工芸の魅力発信と担い手育成事業」につきましては、2年目の事業となりました。クラフトフェアの名称を、クラフトにはまっていこうというところを表現いたしまして、CRANUMA（クラヌマ）とし、2日間、興雲閣、カラコロ工房で開催し、工芸やクラフトフェアによる松江の新たな魅力づくりに取り組んだところです。

最後に、五つ目の「テレワークデイズ・MATSUE 事業」につきましては、3年目の事業となりました。富士通株式会社とワーケーションパートナーシップ協定を結び、参加者からのフィードバックによる事業のブラッシュアップなどに引き続き取り組んだところです。

議事2～4の説明は以上です。

田部会長

議事1～4について事務局の説明が終わりましたが、委員の皆様からご意見・ご質問等ありますでしょうか。

山中委員、どうぞ。

山中委員

資料3に関連して「松江市みんなにやさしいデジタル市役所計画」を熟読させていただきました。具体的には、市役所内の手続き等をデジタル化していくということで、デジタルトランスフォーメーションとまでいえるのか、という部分がありますが、取組をしっかりと進めておられ、いわゆるG to C (Government-to-Citizen)、要は市民に対するサービスを重点的にされておられるということが、この計画の中に記載されており、着実に進んでいるということを確認させていただいております。

ただ、この計画が国の方のデジタル田園都市国家構想総合戦略に沿っているかということ、少しそぐわない部分等も見受けられましたので、今後、この計画の中で、どのような観点で取り組んでいかれるのか、ご質問させていただきたいと思います。

事務局（小川課長）

ご指摘のとおり、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略においては社会課題解決の部分も含まれており、「松江市みんなにやさしいデジタル市役所計画」は今、市民サービスの向上、業務の効率化、人材育成の三本柱ですが、本年度中に、4本目の柱として社会課題解決を掲げようとしております。庁内においては、スマートシティや様々な角度で社会課題を解決していく際にデジタルを使うことについて、山中委員も含めてIT企業、ベンダーとも意見交換をしながら、地域の課題は何なのかというところを整理し、我々としてできること、また、民間の力をお借りしてやるべきこと等を整理しながら今後進めていきたいと思っております。

なお、この計画の改訂にあたっては、具体的な項目決めと国の予算も含めた予算取り等もあるため、できるだけ早く実行できることはしたいと思っておりますが、現時点で何か具体策があるかと言われれば、今は探しているという状況になります。

田部会長

そこで提案ですが、デジタル化については、どういうふうにやっていくというビジョンを先に掲げて、こういうふうにすると先に言ってしまう方がいいと思っております。どうしてもデジタル化と言われる場合に、デジタルにあまり強くない、いわゆる高齢者の方とかに対して、キャッチアップできるようにしないと進まないような印象を受けております。デジタル化に関しては、今欧米は全く逆で、デジタルに弱い方をとりあえず置いてきぼりにして、周りの家族、友達、市役所の人が教えながら、ちょっとずつデジタル社会に近づけるような進め方になっております。

私からは、松江市にある堀川遊覧船、松江城天守閣、松江歴史館、小泉八雲記念館、小泉八雲旧居武家屋敷等、他の民間の施設も含めて、紙のチケットを取り扱わないよう提案させていただきたい。もうヨーロッパでは紙のチケットはゼロで、すべてオンラインチケットを予約していくことになっており、何時に何人どの施設に行くかが全部把握され、その情報が公共交通であるバスやタクシーに連動し、各施設付近にバスやタクシーが配車されるようなシステムになっております。

デジタル化で日本が著しく遅れている理由は、先ほど言ったように高齢者の方に少し気を使い過ぎと感じておりますので、これくらいのことをやっていく、というビジョンを出していただいて、紙を減らしていった方がいいでしょうか。県立美術館等のいろんな施設とも連携しながら実行できたらいいなと思っておりますが、具体策がないと仰っていたため、具体的なお提案も含めてですが、いかがでしょうか。

事務局（小川課長）

具体策が欲しく、非常にありがたいなと思って聞かせていただきました。

一方で、「松江市みんなにやさしいデジタル市役所計画」では、デジタルに慣れた方、不慣れた方にもちょうどいい市役所を目指す、ということも掲げさせていただいております。高齢者のスマホ教室もシルバー人材センターと一緒に開催しており、それはそれで取組を進めつつ、国の交付金を活用しつつ、行政だけではなく民間の皆様のお力も借りながら進めるべきことは進めていきたいと思っております。いいアイデアをいただきましたので、前向きに取り組めるように頑張っております。

田部会長

ぜひ、前向きに考えていただければと思います。
他にございませんか。坂田委員、どうぞ。

坂田委員

基本目標「ひとづくり」の「共生社会、地域コミュニティ」における自治会についてですが、私の仕事柄、町内会長と話す機会が多くあり、お話を聞くと長い期間やっておられる方が多く、また、非常に仕事量が多いという印象を持っております。このような話を聞いて、余計にやりたくない方が出てくる
とか、若い世代にバトンが渡らないということもよく聞くところであり、実際に、かなり多くのお仕事を
をされていて、お祭り、見回り、草刈り等、もうこれはなかなかできないな、と思っております。

そこで、行政のサポート等により町内会長の負担を軽くして、次の代にバトンを渡しやすい状況を作
らないと、現役の方がもし万が一、亡くなられた場合に、本当に自治というのが非常に成り立ちにくい
状況が見て取れるような可能性が高く、このようなことをインフラとしてご検討いただきながら、コミ
ュニティを作っていたいただきたいと思います。

事務局（井原課長）

現在は自治会への加入率が年々低下してるような状況であり、ご指摘いただいているとおり、市民ア
ンケートにおいても、40代50代においては特に役員になることが負担になるという回答もいただい
ております。

まずは実態を把握させていただきながら、いろいろなコミュニティ活動ができるような施策を今後検
討してまいりたいと考えております。

田部会長

他にございませんか。星野様、どうぞ。

星野氏（細田委員の代理）

先ほどデジタル田園都市国家構想のお話がありましたが、松江市内全域に光ファイバーは届いてるの
でしょうか。島根半島の海岸沿いは届いてないように思っております。

事務局（小川課長）

仰られるとおり、全域ではないと思います。

星野氏（細田委員の代理）

ご存知のとおり、マイナンバーカードでの保険証の利用が進められており、普及状況は島根県全体の
74%と聞いておりますが、逆に言うと、約25%はまだ対応できておりません。紙もまだ残っており、これ
だけが原因ではなく、高齢化もあると思いますが、今年、島根半島海岸方面にある開業医が2件廃院
し、島根半島の海岸沿いに医療機関がなくなり、そこにおられる方々は、松江市の中心部に來ていただ
くこととなります。そこで今度は交通機関の問題があり、高齢者は免許を返納するような動きもある中
で、コミュニティバスについてはコロナ禍もあり、皆頭を悩ませているような状況もありました。

市の仕事ではないかもしれませんが、もう少し外部人材も含めてインフラを整理していかないと、次々と閉院されるところが増えてしまっはまづいという気がしております。例えば、徳島県では山間部の一つの小さな村で光ファイバーを開通し、公民館を開放するなど、かなり都会から人が流れてきたようなこともあり、光ファイバーを普及していただければと思っております。

あと、マイナンバーカードについてですが、リーダー（読取装置）を私の医院でも導入しましたが、申し込んでから業者に来てもらい設定していただくまでに半年もかかりました。また、私がお願いした業者のベンダーですが、松江市では対応できず、広島県から来ていただきました。現在でも8か月経ってもまだ業者に来てもらえず、補助金が貰えなくなったという事例もあり、これはベンダーが大阪府のようでした。

こういった取組を進めるにあたって、SE（システムエンジニア）の人が足りているのかどうか、また業務の忙しさもよく分からないところですが、その辺はどうなのでしょう。

事務局（小川課長）

全体の地域コミュニティのことをデジタルでどうするのかというお話で、先ほどバスのお話もありましたが、AI デマンドバスを八束町で試行的に始めており、今後広げていくような構想もあります。ただ、それを使う際に電話がいいのか、スマホがいいのかという議論もあり、高齢者のスマホ教室など、いろんなことが絡んできますので、デジタル戦略課だけではなく庁内各課と協議しながら、進められるものから進めていくというのが実情になります。

また、徳島県がかなり早い段階から、光ファイバーを導入し、IT 企業誘致等々進められているいろんなことをしてこられたことは我々も承知しており、なかなか一足跳びに全域に光ファイバーということも簡単にできるものではなく、いろんな業者も含めて、いろんな角度で対応していかなければならないものであると思っております。

先ほど、マイナンバーカードのリーダーのお話でSEが十分にいるのか、というお話がありましたが、昔から誘致してきたこともあり、市内にもたくさんのIT 企業に立地していただいたところですが、IT 業界にもいろんな種類があり、市内にIT 企業がたくさんあるからといって、必ずしもマイナンバーのことができる訳でもなく、専門外もあつたりされます。そういった意味では、どうしても大手企業に頼らざるを得なく、山陰地方には営業所はあるものの、専門的な方は数多くいらっしゃらないというのが実情になります。SEに関しては、日本だけではなく世界中でリソース不足というお話もある中で、国もデジタル施策として基幹システムの標準化も進めていることもあり、エンジニアの取り合いになっている状況でもあると思っております。

国の方でマイナンバーカードの普及等のビジョンを掲げて進めておりますが、なかなか難しい実態もあります。どうやってそれを改善するのかについては、我々だけでは限界があるため、我々もいろんなところで大手ベンダーとお話し、状況も聞きながら、今回いただいたようなご意見があったということも届けさせていただきながら、また、実行に移すならば早めにするのが大事であると思っております。

山中委員

補足しますと、エンジニア不足は今始まったことではなくて、足りない人がどんどん増えていっているというのが実態になります。一方で、SEの人口は島根県でも松江市でも増えておりますが、先ほどの

例では、各医院にマイナンバーカードのリーダーを取り付けなければなりません。今までそういう需要があったかという点、同時にということはなかったため、それらの需要を満たすように全部用意しなければならず、かつ、ハードウェアについては厚生労働省やデジタル庁が認めているものしか使用できなくなっております。しかもそれを作っている業者が機密を持ち、我々に一般公開してもらえないものでもないため、どうしてもリーダーを設置できる専門の業者で、かつ、専門のエンジニアが、というふうになってしまうため、今は松江にはおらず、広島や大阪や東京から来ていただくのが実態になります。

また、半導体が足りなかったせいもあり、納品が非常に遅れておりましたが、やっと最近流通してきております。しかし、機械は機械ですので、各医院に発送して配ることは可能ですが、最後はエンジニアが1個ずつセットアップしていきますので、どうしても時間かかる状況になっております。

ただ、注文してから半年、8か月かかるというのは、私が聞いてもあまりにかかり過ぎており、補助金等もありますので、これは行政の方から言っていただくことがあるのかはわかりませんが、メーカーへお願いする際に、補助制度が機能するよう、国等に働きかけていただくことが必要ではないかと思っております。

田部会長

他にございませんか。秋本委員、どうぞ。

秋本委員

私からは、つながりづくり、どだいづくりについてご質問させていただきたいと思っております。

まず、つながりづくりですが、KPI「関係人口のイベント参加者数について」のところ「SNSの多様化によりターゲットを絞った効果的な情報発信やイベント開催手法の工夫が必要である」と分析されており、確かに大学生と高校生では、試験期間がずれているなど、またその他にも就活の行事があるなど、なかなかスケジュールが合わないということは私も実感しております。だからこそ、ターゲット別にイベント開催することはもちろんですが、それと両輪で、高大が連携できるイベントも大切であると思っております。例えば、KPI「関係人口にまつわるイベントや交流会、講演会などに参加した人数」は“×”になっておりますが、こういったイベントを行っていくことが、大学生にとっても、後輩たちと話す機会となり、地元の実情を知ることができ、また、高校生にとっても、今高校で行われている総合的な探究の時間における地域課題研究等のネタにも繋がるものと考えております。高大連携については、私も松江東高校とイベントさせていただいたこともあり、本当にそういう機会を持つことは難しいと思っておりますので、そういった交流についても、例えば、年末年始等の人が集まっている時期を狙うのがよいのではないかと考えております。

次に、どだいづくりについてですが、KPI「松江のことを発信した市民の割合について」のところSNS発信について記載してありますが、SNSでの発信については、私もフォローしており、市長も積極的な発信をしておられると思っておりますが、SNSの発信というのは、どうしても空中戦といえますか、浮動的なものですので、これだけではなく、地道な呼びかけとかも必要になってくるかと思っております。例えば、ペーパーレスのお話がありましたが、島根大学では学生へ一斉にメール送信ができるので、もしターゲット別のイベントがあるとしたら、大学生に絞り込んでダイレクトメッセージを送るような方法もありますので、ぜひ、そういった点も含めて、SNS戦略に取り組んでいただければと思います。

事務局（井原課長）

まず、SNSの多様化によっていろいろな媒体、ソーシャルメディアを使っている方がおられます。これまで行政の情報発信としてはホームページに公開して情報を取りに来てくださいというようなことが一般的でしたが、これからはLINE等を活用し、プッシュ型で通知していくような形を取り入れ、情報が欲しい人に、欲しい情報が届くような環境を作っていきたいと考えております。

それから関係人口のところですが、総合的な探究の時間も含めて、現在、小学校・中学校・高校において松江市総合計画を学習教材としてお使いいただいている学校も増えてきており、これによって松江市の良さを改めて知っていただき、大学進学になると県外・市外へ出て行かれる方が多いので、松江市の良さをしっかりとわかっていただいたうえで、また帰って来ていただけるような仕掛けのところ、連携も含めて一緒に取り組みをさせていただきたいと思っております。

田部会長

他にございませんか。松本委員、どうぞ。

松本委員

町自連の立場からデジタル化について申し上げたいと思いますが、コロナ禍でZoom等いろいろな会議が本当に楽になり、県外に行かなくてもよくなったというのがメリットと感じております。しかし、顔を見ないで何かを進めていくということの恐ろしさをマイナス面として決して忘れてはいけないと思っております。先ほど、町内会の会長を長年している方がいるということをおっしゃいましたが、私は地元の自治会で20年しております。なぜ20年もしているかという、私がやめるとわかる人がいないんです。つまり後継者がいないんです。でも、最近顔を見ていくと、自分の娘の世代の30代の若者が育っております。そういうのは、やはり顔を見ていかないとわからないし、そういう人たちはデジタルでは育たないと思っております。顔を見て、そして話し掛け、この人と人とのコミュニティがひとつづくりに繋がるため、デジタルだけではなくリアルな部分がどうしても必要であり、そのバランスを取っていただきたいと思っております。

事務局（小川課長）

我々もデジタルが目的になるのではなく、デジタルはあくまでも手段であろうと思っております。いろいろなことが便利になってきて、その中で今はデジタルを使うことに重きが置かれがちですが、それで人間関係が希薄になっては元も子もないというお話ももちろんあるかと思っております。デジタルのいいところ、顔を合わせて話すことのいいところ、それぞれにメリット・デメリットがありますので、そこはバランスよくというところを念頭に置いて進めてまいります。

田部会長

私も置いてきぼりと言ってしまいましたが、あれは一旦置いてきぼりにして、その後、みんなでサポートして追いついていただくという意味合いですので、再度補足させていただきます。

他にございませんか。佐藤（尚士）委員、どうぞ。

佐藤（尚士）委員

人口が減ってくることを一番懸念しておりますが、その中でも就学・卒業で20歳～24歳は転出超過が多いということで、先ほどの高校を卒業して松江市を出て行かれるまでに松江市の良さを学ぶことは非常にいいことだと思いますが、同時にやはり地元企業の良さについても高校生に十分に認識していただき、Uターンに繋げていただきたいと思います。出て行った先でご結婚されてご家族でUターンということになればより効果的であると思っておりますので、こちらの取組もよろしく申し上げます。

事務局（小川課長）

確かに松江市にどのような企業があるのかということは、高校生や大学生の中には認識されていない方も多くいらっしゃいますので、どういうふうにアプローチしていくのが重要になると思っております。担当部局の方では見学ツアーを開催しており、そういった取組をもっと積極的にアピールするなど、企業の方にもご協力いただけるような体制を取りたいと考えております。

田部会長

島根大学と島根県立大学では、市内の企業4～5社が奨学金を出して、企業にインターンで来ていただくという事業をされており、地元企業と大学生が密接に関わっていただける事業によって県内就職率を上げていこうということに取り組んでおります。このような企画に松江市も大学といろいろと情報連携されればよろしいかなと思います。

他にございませんか。鶴見委員、どうぞ。

鶴見委員

私は3年前に松江市へIターンしてきましたが、それまでは京都で生まれ、京都で育ってきました。母方の祖母が松江市の出身であり、自分自身、幼少期から年に1回は松江市に来ていたこともあり、そういった縁もあって、引っ越してきました。

先ほどからデジタルのお話がずっと続いていましたが、私は引っ越してきてからこの3年間、松江市がそんなにデジタルが進んでいる街なのかな、と感じておりましたが、今回、松江市総合計画や島根県がデジタルに力が入っているということを知り、ニュース等で島根県の取組を見させていただき、しっかりと土台が作られているんだなと初めて思いました。

ただ、実際に暮らしてみると、この1年くらいでやっと一畑百貨店や寺町にデジタルサイネージができ、パッと市民が見てデジタル化が進んでいると感じるところは、そういった部分だけなのかなと感じております。私が感じる松江市のいいところは、むしろアナログな部分で、ポスターが商店に貼られているイメージであり、今の時期は鞆行列のポスターが商店街にパッと貼られてるの見て、イベントがあることを知ることができます。ネットで松江市のことを調べるよりかは、車で走って知って、それが広まるような街なのかなと思っております。

デジタルに移行していくのはすごく大事なことだと思いますが、松江市に住んでいる人や、松江市に移住してくれる人や、松江市に観光に来る人に対して、より魅力を感じていただくためには、アナログな部分も必要なかなと思っております。松江市総合計画では市民実感として「松江には歩きたくなるまちなみがある」を掲げておられますが、私はそこが一番本質的なものと感じており、正直今はそこまですではなく、歩いてぶらぶら観光したいと思えるような状況ではないように感じております。もっと街

と街、横の街の繋がりをもっとしっかり強くして、天神祭等の取組がもっと賑やかになると、本当に歩きたくなり、子供たちが集えるような場所ももっと増えてくると思います。

私も最近子供が生まれ、今後、松江で60年近く暮らしていくことになると思いますが、そのような街であることが、長く住んでいくために必要な要素であり、今後もIターン等の人材がしっかり定住でき、松江市の魅力をIターン元の友人等にしっかりと伝えていけるようなまちづくりがすごく大事なのかなと感じました。

事務局（井原課長）

仰られるとおり、人を介して伝わっていくことも非常に有効な方法の一つであると思っております。デジタル化も良い面と悪い面があるかと思っておりますので、アナログな部分とバランスよく見ながら進めていきたいと考えております。松江市の商店街にポスターが並び、夕方になると鑿の音が聞こえる情景も実際に来ていただかないとわからない部分ですが、来ていただくまでの過程においては情報発信も重要になり、ある程度デジタル化が必要になりますので、バランスよく取り組んで参りたいと考えております。

田部会長

今、県庁前と大手前と駅前と宍道湖大橋の区間を一体的に繋ぎ、この中で松江城から松江駅までぐるぐる歩いていただけるように簡単な二次交通も考えながら、取組を進めているところです。寺町や天神町の商店街では、お店がなくなり空白地になっているところもありますが、我々は空き家・空き店舗を埋めようとしており、そこが繋がっていくと、白潟天神、堅町、袖師の方まで歩いていけるような検討もしているところです。

他にございませんか。植田委員、どうぞ。

植田委員

人口動態についてご説明がありましたが、年代別・移動理由別移動者数において、20～24歳は△758人、25～29歳は△104人となっております。この部分の人口減少について調べたことがあり、県のデータでは、男女で傾向に差があり、男性は松江市を出ても帰ってくるのが多く、女性はほとんど帰ってこず、ここが人口減少の大きな要因となっていることがわかりました。これは県のデータなので、松江市にそのまま当てはまるのかはわかりませんが、女性に帰ってきてもらわないといけないと思っております。ただ、キャリアを積んだ女性がこちらに帰ってくるのは、ハードルが高いということもあり、この辺りの施策は実際どのような状況なのでしょう。

我々も今はどちらかというと所得が低い業界と言われておりますので、上げていく努力が必要であるると思っておりますが、そういうキャリアの女性を採用させていただくために、他市では補助金を出したりもされております。生産性を上げ、収益を上げ、少しでも所得を上げていき、優秀な人材をインターンからでも雇用できるような環境を作っかないといけません。今取組を始めており、割引やプレゼント等の付加価値を持たせるなどの環境を作っておりますが、キャリアを積んだ女性の方々を行政でも採用をしていただくなど、連携できることもあって思っております。その他の企業においても女性のキャリア採用が進むと20代の人口も増えてくるようなイメージを持っておりますので、データを細分化して数字を見ていくことが大切であると思いました。

事務局（小川課長）

人口動態の数字ですが、女性の転出が多くて戻ってこないという松江市の詳細な数字は今手元に持っておりませんが、このような傾向は変わっておりません。多様性やジェンダーレスの面を踏まえると女性限定のU・Iターン施策などを進めるということは難しい時代になってきておりますが、やはり男性が働きたい仕事、女性が働きたい仕事にもまだまだ違いがあり、女性が戻ってきて働きたいと思えるような仕事があるのかどうかを考えていかないといけないと思っております。関係課では、文系の女子大生に向けてIT体験ができる事業をしており、もちろん市内にどんな会社があるのかも含めて、こういったところでこういった方にご活躍していただいているのか、県の方でも女性が活躍する会社の紹介もしておりますので、行政としては企業誘致もしつつ、市内にある会社をPRすることも必要であると思っております。

一方で、戻ってこない人にどのようにコンタクトをとって、戻ってこない理由をどこまで聞けるかという難しさはありますが、いずれにしても、学生時代から接点を持ち、情報収集するようなことも考えないといけないと思っております。ご指摘のとおり、このような取組を進めれば20代の人口が増えるというのはそのとおりだと思いますが、なかなか苦勞しているのが実情ですので、皆様のお力もお借りしながら進めていきたいと思っております。

田部会長

他にございませんか。松村委員、どうぞ。

松村委員

KPIについてですが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響で31項目を評価対象外とされておりますが、これは1年後には減っていくものなのではないでしょうか。

また、5つの柱毎にネクストアクションを書きいただいておりますが、とても前向きだなと思って見ておりましたが、具体的にどのような施策を考えられ、今現在どこまで進んでいるのかということをお教えいただければと思います。

事務局（井原課長）

まず、新型コロナウイルス感染症の影響について、昨年までは移動制限がありましたが、本年はありませんので、評価対象外はなくなるものと考えております。

それからネクストアクションですが、松江市総合計画は2030年までの長いスパンのもので、そこに向けて、足元の取組についての思いを表したものになります。具体的な施策については、2023年度上期のトピックスというところに一例を示しておりますが、様々な施策を強化していきたいと考えております。

田部会長

評価対象外の項目が多いので、来年はゼロをお願いします。

他にございませんか。黒目委員、どうぞ。

黒目委員

ひとつづくりの中のKPI「子育てホームサポーターの数」が未達成となっており、高齢化による退会が影響したと分析されておりますが、この減った分について今後増やしていく施策や方向性は何かあるのでしょうか。

もう一つ、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を作ったところですが、実際にこれを市民、主に労働者がどの程度知っているのかをお伺いしたいと思っております。2030年に目指すべきまちづくりを掲げられているわけで、実際にはそこにいる人たちの協力がないと、どんな目標を掲げても達成しないのではないかと思います。市長の冒頭のごあいさつの中でも39回の公演・セミナーをされているとあり、それなりに普及しているのでしょうか、実際にこれくらい普及しているというのがもしわかれば教えていただきたいと思っております。

事務局（井原課長）

まず、子育てホームサポーターについてですが、高齢化による退会が多いということご説明させていただきました。現在は、新たな子育てホームサポーターの獲得に向けて、ホームページ等で募集を行っておりますが、SNSも含めて、今後はピンポイントに情報を届けるなど、募集の周知の仕方等についても検討していきたいと考えております。

次に、松江市総合計画がどれほど浸透しているかについては、今は定量的にお示しできませんが、市長講演に加えて、小学校や中学校や高校の授業で取り上げていただいております。そこから保護者へ情報が繋がっていくと、非常に浸透していくものと思っております。また、松江市へ来ていただいた方々へ伝えていただくようなことも含めると、さらに浸透していくものと考えております。まだ始まって2年目ですので、引き続き周知等に努めたいと考えております。

田部会長

策定当初は広く広報されていたように思いますが、1年くらい経つとそうでもなかったりしますので、もう少し広報活動していただきたいと思っております。

他にございませんか。佐藤（薫）委員、どうぞ。

佐藤（薫）委員

つながりづくりの中のKPI「歴史・文化資源のまちあるき参加者数」が未達成となっており、申込者数が多かったが、天候不順で参加者が少なかったと分析されておりますが、この申込者というのは、地域の方になるのでしょうか。地域の魅力ということで、先ほどからお話がありますが、松江市に人が戻ってくることや、今ここに居る若い人たちが県外へ行った時に発信してもらえる地域の情報というのは、このようなまちあるきが利用されるのかなと思ひまして、これは県内の方が体験されても面白いと思ひますが、申込者は公民館単位の地元の方々なのかどうか教えていただきたい。

事務局（井原課長）

今回は公民館単位では6地区で実施し、定員240名に対して申込者数は313名でしたが、やはり当日の天候が悪いとご参加いただけなかったということになります。今後、この指標のあり方も含めて検討したいと考えておりますが、基本的には地元の方が参加されるものと考えております。

竹田委員

事前の質問の中に同じ項目の質問がありますので、併せてご確認ください。

事務局（井原課長）

ご意見ありがとうございます。本日ご欠席の佐藤（和彦）委員から事前にいただいた意見の中に、このイベントに新規の方がどれくらい参加されたのかというのがありますが、基本にご参加いただいた方は地元の方々ではなからうかと思っております。今後は、広報の仕方についても検討したいと考えております。

田部会長

他にございませんか。鷗鷗委員、どうぞ。

鷗鷗委員

基本的には観光業、食品製造業に関してですが、新型コロナウイルス感染症は大分落ち着いたこともあり、観光客はかなり増えていると感じております。しごとづくりでは「中心市街地商店街の店舗利用率」が目標としてありますが、先ほど田部会長からもありましたとおり、商店街の空き店舗をなくしていく取組について、私はかなり新しい店舗ができてきているなという感じを持っております。

ただ、コロナ期間中だけではなく、今年に入ってからでもですが、松江市の玄関口である松江駅では来年1月に一畑百貨店が閉店されることもあり、商店街以外の空き店舗も目立つような印象があります。松江駅はJRなのかもしれませんが、結構歯抜け状態のところもありますので、これを機会に商店街の方に新規出店ということになれば市全体としてはいい流れになると思います。今までずっと埋まっていた場所が、今年に入ってからまだ埋まってない状態なので、観光地としてそこら辺も考えて動いてもらえればとそう感じております。商店街活性化だけではなく、主要となるエリアに関しても松江市からもプッシュしていただければなと思います。

事務局（井原課長）

空き店舗というのは松江駅の中や、一部百貨店の中や、イオンの中のようなイメージでしょうか。

鷗鷗委員

そうです。あと、学園等にも飲食店がありますので、観光客の方々がお食事されたり、お買い物されたりするところのようなイメージです。

事務局（井原課長）

なぜ空き店舗になっているのかという原因分析もある程度しないと、難しいように感じております。例えば、立地の問題なのか、テナント料の問題なのかも含めてですが、これまで入っていたところに入っていないっていうのも今後分析が必要であると思いますので、経済団体の皆様と連携して取り組んでいきたいと考えております。

田部会長

イニシャルでかかる初期投資に助成されるのはいいと思いますが、ランニング費用を助成されるのは私はやめたほうがいいと思っております。ランニングの助成がなくなった瞬間に退去されるようなことが多いので、その辺のことも考えながら進めていただきたいと思います。

他にございませんか。竹田委員、どうぞ。

竹田委員

事前に意見したものについて、発表もされずに手元に配られるだけであり、直接回答をいただけない状態なので、重複した質問もありました。会議時間がもったいないと思いましたので、やり方を考えたほうがいいかなと思いました。

田部会長

ご意見ありがとうございます。

では、以上の議論を踏まえて上定市長から一言いただけますでしょうか。

上定市長

本日は多くのお話をいただきありがとうございます。

はじめに、松江歴史館でチケットのペーパーレスについて試行を始めており、評価がいいので広げていきたいと思っております。それだけではなくて、例えば特定の人への割引がしやすくなったり、消費動向の属性がわかるのでマーケティングがしやすくなったりもします。実際にそれを既にやられているのが市営バス、一畑バスの交通系 IC カード使であり、ユーザーの分析が進んできたこともあり、タイヤの見直しも効率的にしようと思っておりまして、データを踏まえた上で、しっかりとサービスにつなげていくという循環を作っていきたいと思っております。

それから、光ファイバーとかケーブルについては、今は山陰ケーブルビジョンに担っていただいているところが多いですが、行政で今取り組んでるのは特に公共施設、例えば、公民館や、最近オープンした中央図書館でフリーWi-Fi をどんどん導入しておりますので、できるだけ皆様にネットでも情報をキャッチしていただけるような設備の導入というのは進めていきたいと思っております。

次に、デジタル化とアナログの話もすごく重要だと思っておりまして、両者のバランスを取りながらと思っております。例えば、ポトピアのあたりに最近ビジョンができ、そういうのを活用して、最近私が土曜夜市の話を 15 秒くらいでお話させていただいております。ポスターも重要だと思いますし、そういったものを活用しながら松江市からの情報発信を重ねていきたいと思っております。

それから、高大連携の話と松江市を出た人が松江市に戻ってくるというお話がありましたが、MATSUE 学園祭という地元を 1 回離れた大学生が学園祭をするという企画があり、そこに高校生の皆様も多くご参加いただきました。高校生・大学生が連携する機会を能動的に今後作っていきたいと思っております。また、卒業する際に LINE で登録をしていただき、卒業されて 3 年、例えば大学 3 年生になった時に地元企業の情報を提供することによって、就職の選択肢に地元も入れてもらうような取組を進め始めております。他にも、高校生が企業に足を運ぶ機会や、高校に企業の方々をお迎えして自社を紹介する機会も作っていき、その際に LINE の活用も考えていきたいと思っております。

それから、女性活躍の話については、松江 IT 女子 5Days プログラム以外にも、まだ今は計画段階ですが、今度、NHK でアナウンサーをしていらっしゃる福島敦子様に来ていただき、女性活躍についての企業向けのセミナーの開催を予定しております。福島敦子様は企業の社外取締役もしていらっしゃっており、女性活躍の推進に取り組まれております。もちろん行政も含めてですが、働き方改革だけではなく、女性にしっかりご活躍していただけるような社風にしていくというところについても、福島敦子様の力をお借りしながら、取り組んでいこうと考えております。

それから、松江市総合計画の浸透具合の把握についてですが、松江市では毎年市民アンケートを行っているため、調査項目に入れるなど、検討させていただきます。

それから、まちあるきの話ですが、私は大野地区で参加し、その時は、隣の公民館や更にその隣の公民館からの参加者がおり、市内中からご参加いただいておりました。一緒に歩いてお話をした中では、むしろ自分の公民館区ではない人が結構多かった印象でしたので、今後はアンケートにより分析したうえで、開催できればと思っております。

以上、皆様からいただいたご意見を加味して更にブラッシュアップしていきたいと思っております。

田部会長

ありがとうございました。

それでは議事は以上となりまして、続いて報告事項について事務局からお願いします。

9 報告

事務局（松本主任）

報告1「令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について」説明

事務局（岡田課長）

報告2「松江市のSDGs推進の現状について」説明

田部会長

最後にその他ありますでしょうか。

10 その他

事務局（本田政策係長）

その他「ミライソウゾウ会議の開催について（お知らせ）」説明

田部会長

ありがとうございました。

最後に全体について、ご質問やご意見はありますでしょうか。特になければ、本日より予定していた議事はすべて終了いたしました。皆様ありがとうございました。

それでは事務局にお返しいたします。

11 閉会

事務局（本田政策係長）

田部会長、円滑な議事進行ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして「令和5年度第1回松江市総合計画審議会」を閉会いたします。

ありがとうございました。

以上